



無所属・無党派 浦和の復権に挑戦

発行者：さいたま 変革の会

川村 準

8月25日号

週刊活動レポート

〒336-0017
南区南浦和2-28-9-102
携帯 090-1404-2151

junkawamura1923@gmail.com

さいたま市 ここが問題

消費増税など家計が厳しいなか

下水道料の値上げは問題

保険ショップ「保険クリニック」によれば、夏のボーナスは正社員の4割が支給されなかった、とのこと。このことから、まだまだ日本経済は景気回復の途上と言えそうです。そんな中、私として皆様がお住まいのさいたま市では、7月から下水道料金が2割以上アップし、一般家庭で年間4千円の負担増（増税分除く）となりました。しかし、下水道料金は上げずとも市の財政はつまくやりくりする事が出来る。そのことを今回のレポートで説明させていただきます、と思います。

夏期ボーナス4割未支給

アベノミクスで景気は回復に向かつており、市民は相次ぐ増税にも耐えられる。そんな巷の観測とは裏腹に、夏のボーナスは正社員の4割が支給されなかった、との調査結果を保険ショップ「保険クリニック」が発表しました。

支給された人のうち、上がったのは2割、前年と同水準が6割、下がったが2割との結果が出て

7月から下水道料が値上げ

消費税の増税に比べて陰に隠れがちですが、6月に住民税がアップして年間1千円の負担増、また中東情勢の悪化や日本のエネルギー政策の在り方が定まらない事情もあり、電気・ガス料金も上昇傾向にあります。増税が相次ぐ中、賃金の上昇は追いついておらず、今後は携帯電話に税金をかける案も自民党などから出ており、市民の家計は苦しくなる一方です。来年の秋には消費税の再値

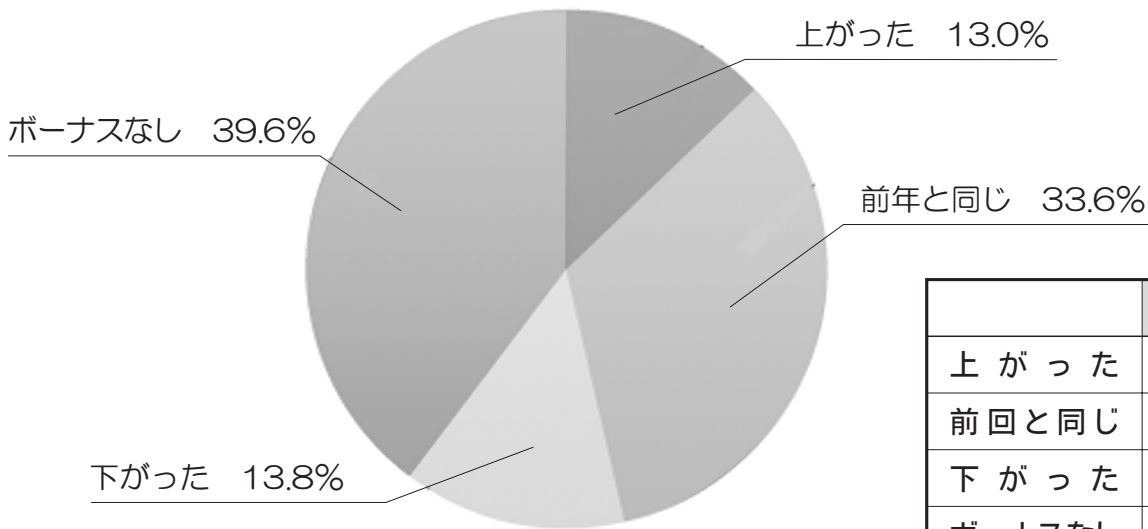
上げも考えられる中、さいたま市では7月から下水道料金の値上げが始まりました。

水道料金の黒字を使えば 今回の値上げは不要

下水道料金値上げの理由は、さいたま市が病院水道、下水道の三事業を、企業会計という採算性を求めた会計としているためです。赤字が続く下水道会計の採算性を確保するため、下水道料金はさいたま市が発足した01年以来、4年毎に料金の見直しが進み、今では発足時と比べると2倍の料金となりました。

しかし、今回の下水道料金の値上げは、避けようと思えば避けられたことは考えます。具体的には、今回の値上げで年間20億円の収入増を市は見込んでいます。しかし、下水道会計は赤字ですが、水道会計は20億円以上の黒字。(例えば、平成24年度は44億円の黒字。また、病院会計は14億円の黒字)そのため、増税が相次ぎ景気がどうなるかわからない今、市行政は下水道料金を元に戻し、家計の負担を減らすべき、と私は考えます。市民の側に立つべき市議会議員が値上げを肯定したことは非常に残念です。

夏のボーナスは前年とくらべてどうでしたか



	男性	女性
上がった	32	33
前回と同じ	92	76
下がった	45	24
ボーナスなし	81	117
合計	250	250

調査の結果、意外なことに一番多かったのはボーナスなし。企業によっては年棒制で年俸を12カ月で割って、お給料を支給している企業も増えてきていることが要因と考えられます。

ボーナスを支給された人だけで集計してみても

- 上がった : 21.5%
- 前年と同じ : 55.6%
- 下がった : 22.8%

と前年と同じ、もしくは下がった人が約78%を占めています。景気が上向きと言われていますが、まだまだ一般的に広まっているとは言えない結果となりました。

(「保険クリニック」のサイトから)

消費増税の影響が見えない中で、さいたま市議会は下水道料金値上げを決定してしまった。なお、アンケートのサンプル数は男性250人、女性250人の計500人。対象は派遣社員、経営者を除く20〜60歳。東京海上日動火災保険によるウェブアンケートで、調査期間は7月11日から15日まで。

さいたま市を川村準と考える会

さいたま市に求められる政治

― 無所属が出来る議会改革

参加無料

講師：榎本和孝氏（蕨市議会議員）

日時：10月11日(土) 午前10時〜12時

会場：武蔵浦和コミュニティセンター第6集会所

(サウスピア8階)

▼榎本和孝氏プロフィール 2011年蕨市議会議員に当選後、無所属で活躍。蕨議会で唯一、政務活動費の受け取りを拒否。市政事務の消費増税分の値上げに反対するなど、生活者目線の市政を実現するため日夜取り組んでいる。

(「さいたま 変革の会」代表)

川村 準じゅん のプロフィール

1987年11月生まれの26歳。旧・浦和市の大牧小学校、大間木中学校、都内の私立・順天高校を卒業後、渡米。2007年ノースイースタン州立大学入学（米国・オクラホマ州）。留学中に、米国人を始め自国の文化に誇りを持つ多数の外国人と触れ合い、日本のあり方を考える機会に。2011年12月卒業後、浦和に戻り、現在、工業系新聞の記者として働きながら、故郷の文化を始め市政の問題点について勉強中です。